

「クローン病手記」 匿名希望 13 歳

2013 年 1 月 31 日

私は中学生の母です。

平成 24 年の 2 月大学病院でクローン病と診断されました。

それまでの経過と松本先生の医院を知り治療を受け人生が大きく変わった事をお話します。

小学六年生の時いじめにあい、精神的なことから下痢を繰り返すようになりました。ストレスも溜まり学校との話合いも何回もしましたがあまり改善されませんでした。そのことが原因で二ヶ所、痔ろうになり六年生の三学期の初めに応急処置で膿をだし腫れを引かせました。

しかし、中学に入学し、新生活が始まり、また下痢を繰り返すようになり、痔ろうが悪化、二ヶ所ある痔ろう（ひどい個所を先に）6 月手術をしました。手術前に大腸検査をしました。その時、先生から「腸が軽い炎症を起こしているので、神経を使わないよう生活をしなさい。ストレスを溜めないように」と言われました。私は、その時あまり気にしていませんでした。

普通なら 3~4 ヶ月で傷口がふさがり良くなると言われましたが、完治するまで一年以上かかりました。

中学二年の 12 月二回目の痔ろう手術を行いました。

便の出方（細い・軟らかい便）があまり良くないようなら、急がないけど一度胃腸内科の診察を受けるように、言われました。

本人は下痢をしていないのであまり気にしていません、私もあまり気にしていませんでした。「春休みに時間があるときに行けばいいか」ぐらいに思っておりました。

その翌月の 1 月新学期始まり、すぐに高熱を出し、インフルエンザかと思いましたが、異常なし、手術後の傷口が化膿して熱が出たのかとも思いましたが、異常なし。翌週のまた高熱を出し、腹痛も始まり病院へ、風邪と診断。

その頃から 咽喉に白い斑点と口内炎ができ、私は野菜と果物が嫌いで出してもほとんど食べないのでビタミン不足によるものと思い、ビタミン剤を飲ませました。しかし、口内炎は治らず、熱は毎日、夜になると 40 度以上出るようになり、口内炎と腹痛で食事できず、体重はどんどん減り、再度小児科へ、医師は“風邪によるもの”と言ひ薬だけの治療をと言うのを、お願いして血液検査をして頂きました。

もしかしたら、マイコプラズマ肺炎かと思ったからです。

結果も教えてもらえず、すぐに近くの病院へ行くように言われレントゲン等の検査をしましたが、わからず大学病院へ行くことになり、そこで初めてクローン病と判明しました。

発熱し始めてから、病名が分かるまで、約一か月かかりました。

その場で緊急入院。病気の説明を受け、原因不明の治す治療なし、「死ぬ病気ではないよ。一生病気とうまく付き合っていけば、生活に問題なし」といわれた。

お互い隠れて泣きました。いろいろな検査を二週間以内で終わらせ、

治療に入りました。まず、一日中点滴、

食事はエレンタール 1200 c c (栄養剤ドリンク) のみ、

薬を飲用ペンサタ 12錠、次に栄養士の説明、食事制限を厳しく行うことで再燃を防げるとの事で、退院後は一日の脂質 15g、カロリー不足になる為エレンタール一回の食事に 600cc とる事。そんな食事を私は作れるだろうか？息子は絶望。治る病気ならがんばれるが・・・と嘆いた。

好きな肉類はほとんど食べることはできず、鶏胸肉少々、揚げ物は禁止、野菜の繊維の少ない食品、魚の少々、脂質量、消化の良い腸に負担をかけない食事、食べられる材料は数少ないもの、いろいろな調理方法を変えて作るしかなく

お菓子やジュースは当然禁止と言われ、原因不明治療方法なし、腸に良い状態を保つために、ずーと薬を服用、食事制限腸からの吸収が悪いため、

鉄分不足とカルシウム不足のため貧血と骨粗鬆症のおそれあり。

運動制限もあり、自暴自棄になってしまいました。

入院中は毎日がイライラ、食事代わりのエレンタールのまずさ、生きる楽しみがなくなった状態。毎日がほとんど寝たきり。色々なことに対してあきらめの日々。そんな毎日を過ごし、絶食の為徐々に炎症度が下がり食事ができるようになり、院内学級にも行けるようになりました。少し元気が出てきました。

炎症度が下がりはじめ、食事が始まり、おかゆからやわらかめの御飯に変わり、エレンタールの量も減り、3月月末に退院、医師は治療方法について説明をしましたが、

息子は病気のこと、治療方法またその治療の副作用等を勉強し、医師が進めるステロイド、レミケード治療を拒否し、ペンサタと食事治療をえらびました。好きな食事ができない息子の前で家族も食べられず、みんなで同じ食事をしていました。みんなで励ましあい頑張りましたが、やはり、

家のムードは暗い感じになっておりました。その頃の私は頭の中は朝から晩まで食品成分表の本を片手に、息子の食事のことでいっぱい、

少しノイローゼ気味でした。

ネットでいろいろクローン病について調べたり、少しでも食事に対して楽しみが出るよう食事メニューを探したり、毎日時間が許す限りパソコンとにらめっこしていました。そんな時、松本医院のホームページを見つけました。

私も 20 代の時に原因不明の骨の炎症を起こす病気になりました。

その時紹介されたのが漢方だったのです。

はじめは信じてなかったのですが、3-4 ヶ月で治ると言われびっくり、毎日漢方を煎じて飲みました。不妊治療もしていたのですが、漢方医は病気が原因だから、病気が治れば子供もできると言われました。本当に 4 ヶ月後、病気も治り長男を授かりました。

私の経験もあったため、大学病院が治らないといっても、漢方で治るのではと思ひ、子供と相談、漢方を飲むことは大変つらいけど、治る可能性があるならやってみたいと思ひ、退院約 1 ヶ月後、夜行バスに乗って松本医院へ行きました。子供は松本先生と話をし、ストレスを溜めない、自分の力で治す、刺激物以外は何でも食べていいと言われ、“治る”の言葉に勇気をもらい、頑張ることにしました。漢方とカヤマ灸と塗り薬を頂きかえりました。

ペンサタも 12 錠から 6 錠に減らし、食事も普通の食事にし、但し、

6 月初めにある修学旅行には絶対行きたい気持ちもあり、揚げ物等は避けて、体調を整えました。漢方は苦く辛くくさいけど毎日頑張って飲みました。

また、漢方を飲むことともう一つお灸カマヤ灸を買って帰ったので、

毎日お灸もしっかりしました。だんだんお灸をすることも毎日の日課でうまく日常生活に溶け込みました。漢方風呂の楽しみにして週末は 2-3 時間入浴するようになりました。2 週間後漢方がなくなったので、電話で現状を説明して腹痛、下痢もなくアトピーも出ていない事お尻の痛みや膿が出なくなったことをお伝え、励ましの言葉をいただき、漢方を送ってもらいました。

ペンサタの服用も減らしてよいと支持をもらいました。

松本先生にリバンドが出たら治るからと言われ、「まだ出てこない、アトピーも顔しか出てこない、はやくリバンドしないかなー」と言いつつ漢方を飲んでいました。修学旅行の時も漢方が飲めるよう、携帯用の漢方の作り方を教わり持たせました。無事元気に修学旅行から帰ってきました。

一度はあきらめた修学旅行、本当に早く松本医院に行ってよかったと思ひました。そのころはペンサタも全然飲んでいませんでした。

私も毎日の食品計り、脂質・カロリー計算をせず食事を作れること、

限られた食品でメニューを考える事から解放され、本当に感謝いたしました。

修学旅行から帰ってからは、受験勉強をすと言いはじめ 3 か月学校を休んだ埋め合わせをしようと、自分から塾に行きはじめ、漢方とお灸をうまく調整しながら頑張りました。アトピーは顔と背中に出ましたが、それほど本人には辛くなかったようです。やはり、リバンドがすごく出ると思っていたのに、さほど出なかったのは、ペンサタを服用していた期間が一か月半位だったかもしれませぬ。体力づくりも自分なりに考え、体育授業も参加し、放課後走った

り、プールで泳いだり、ほとんど健康人と変わりなくなりました。

体重もだんだん増えてきて、体力もつきました。

下痢、腹痛は全然なく、試験前には徹夜もできるようになりました。

8月に2回目の診察に行きました。

CRP数値は0.30に少し上がっていましたが、他の数値は少しずつ良くなっていました。同じ月に大学病院に定期検査に行き外科の先生がお尻の治りがすごく早く良くなっていることにおどろいておりました。たぶん漢方のお風呂と塗り薬の為とおもいました。11月に行ったときは、もうちょっとアトピーを出して治そうと言われ、漢方を変えてもらい、いまは、もう少しで始まる受験に向けて頑張っています。自分自身でストレスを溜めることがいけないのでストレスの発散方法を考え、毎日生活しております。

発病して1年、あの時はお先真っ暗状態だったのでした。

すべて私の責任と思い詰め、自分自身を攻め一人苦しみました。

しかし、今はどんどん良くなっていく日々が楽しみです。

次回は松本医院へ通院して1年、もっといい報告ができると思います。

苦しんでいるお子さんや親御さんがもしこれを読んで少しでも、希望を持っていただければ幸いです。